

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：S R S株式会社

定 価：一部30円

2015年 9月 20日

第 388 号

『弱さ』を包み込む社会

どうしたら「虐待」が防げるか③

理事長 稲松 義人

浜松市の鈴木康友市長は、市政方針の一つに「こども第一主義」を掲げておられます。具体的にどのような政策によってそれを実現するのか、簡単なことではないと思いますが、私もこの方針には賛成です。

私は、一人の人格として「こども自身を大切にすること」が、いじめや虐待や差別などの人権侵害が起こりやすい社会ではないか思っています。そしてそのためには、前回ふれたように「性弱説」に立った人間理解をもとにして、誰もが内に秘めている『弱さ』を包み込む社会をつくるのが、具体的な取り組みの基本になるのではないかと考えています。

ここで大切なのは、「こども自身を」ということです。子どもを大切にすることに反対する人はあまりいないような気がしますが、それでは、なぜ社会が子どもを大切にしなければならぬのかと問われると、「こどもたちは明日の社会を支えるようになるから、私たちの未来を託す存在だから」というように答える人が案外多いのではないのでしょうか。別の言い方をすると、将来の働き手だから、

ら、未来の納税者だからと言うことにならないのでしょうか。それは、大人の立場に立つて子どもを大切にすることと云えないのでしょうか。もしそうならば、大切に思っているのは、「現在のありのままの子ども」ではなく、「今後成長し、力をつけていく子どもの将来」ということになりそうです。

子どもたちが、将来への期待から大切にされるのだとすると、「重い障がいのある子どもたち」も同じように大切にすることができるとは、能力の高い子どもと低い子どもを同じように大切にすることができるとは、どうでしょうか。

今のありのままの子どもを大切にすることというのは、弱いままの子どもたちも大切にすることだと思えます。たとえ弱い存在であったとしても大切にされて育つた子どもたちは、自分が強いかわいにかよってぶれることはありません。他者が強いかわいかわいということでは差別するような子どもにならないのではないかと考えています。

たとえ弱い立場の人がいても弱いまままで大切にできる社会、たとえどのようなハンディキャップがあっても一人の人格として尊重する社会をつくるために、大人たちあるいは社会全体が、幼い子どもたちをどのように受容しているかということ、大切な視点であると思えます。

児童福祉政策の課題として、保育所

の待機児童の話題が取り上げられることがよくあります。そのための対策が必要だとは思っていませんが、これは直接的な子どものための施策ではありません。保育所ができるのを待っているのは保護者であり、あるいはお母さんたちの職場復帰を待っている事業主であって子どもではないからです。

子どもたちが待っているのは、保育園にお迎えにくるお母さんであり、家族や友達と楽しく過ごせる時間だと思えます。お母さんやお父さんが子どもたちを温かく抱きしめてあげられるように、経済的にも時間的にも、ゆとりをもつて生活できるようにするための施策によって、間接的に子どもたちのニーズに応えることができるのではないかと考えています。

また、この施策は、行政だけで進められる施策ではないと思えます。子どもたちを育む家庭を取り巻く親戚、地域社会、親たちが働いている職場、そして子どもたちの日中の居場所である学校との協働によって進められなければならないと思えます。

ありのままの子どもたちを大切にする社会では、様々な弱さをもつ人々を包み込むことができる人間関係、仲間、組織をつくることのできるのではないかと考えています。そして虐待が起る状況を全体の課題と捉え、未然に防ぐことができるとは、思いません。

## 美味しい！楽しい！食事となることを願って…

入所支援の各施設には、健康に留意しながらバランスの良い食事を提供できるような栄養士がいます。他職種と連携をとりながら、利用者にとって安心かつ美味しい献立や提供方法を模索しています。今回は、各施設の栄養士に様子や取り組みを報告してもらいます。

### 「充実した食生活が

### 送られるように」

三方原スクエア 鷹森 絵真

「今日のお昼はなあに？」「明日はパンだね」「お肉かたいね」「あれが食べたいな」「こんなメニューがあれば喜ぶんじゃないか」など利用者や職員から毎日のように食事に関する様々な声を聞きます。また実際に食べている様子を見ても、これは好きなのかな、これは少し苦手なのかもしれないと分かることもあります。利用者にとって食事とは一体どんな存在なのでしょう。食事は人が生きるためには欠かせないものではありますが、それだけではなく楽しみでもあり生活を豊かにするためのものでもあると思います。そのような視点や考えを大切にしながら献立を立てています。

三方原スクエアでは、児童部・成人部共に同じ献立を提供しています。どちらの利用者も楽しめる献立作りを心掛けていますが、成人部では消化機能や嚥下機能が低下してきた利用者も増え、嚥下食に移行する方も少なくありません。



クリスマス祝会の一コマ

ん。今まで食べることができていた物が食べられなくなつたもどかしさや辛さを少しでも軽減したいと思い、支援員にも様子聞きながら、まずは見た目に気を遣うようにしました。できるだけ素材の形や色が分かるようにして嚥下食をいかにおいしく食べてもらうかを試行錯誤しています。これは大きな課題ですが三方原スクエアだけの問題と捉えず、今後も法人内で協力しながらこの先の様々な問題にも柔軟に対応していきたいと思えます。

利用者の身近な存在である支援員や

古くから利用者を知っている調理員からの意見やアイデアが活かされ、現在のスクエアの食事は成り立っています。日常の食事はもちろんのことですが、行事食は利用者の大きな楽しみであり特に気を遣うところです。普段の献立にはない物を食べられる楽しみや、いつもと違う雰囲気や食べる食事はよりいっそう特別感が増します。そんな行事食にはアイデアや工夫がたくさん詰まっています。

利用者の一人ひとりがその人らしい生活が送れるように私たちは食事サポートしていきます。他職種との連携はもちろん、実際に利用者の様子を目で見て理解していくことが重要なポイントとなり、次のステップへと進んでいけるでしょう。利用者にとって充実した食生活が送られるようにこれからも頑張りたいと思います。



創立感謝祭の刻み食弁当

## 「笑顔をつくる食事」

支援センターわかぎ

伊奈 真由美

支援センターわかぎは、重い障がいのある方が生活している施設です。利用者の平均年齢は55歳で、最年少が28歳、最年長が72歳と、20代から70代の幅広い年齢層の方の食事を提供しています。

食堂ではセルフサービスを取り入れたカフェテリア方式をとっています。利用者はカウンターへ自分で食事をとりに行き、好きな場所で食事をしますが、一人で困難な方は職員が支援します。利用者の中には嚥下機能や咀嚼力の低下、歯の欠損等、食事に関わるトラブルをかかえた方がいます。そのため、食形態は「常食」「軟菜食」「嚥下食」とあり、御本人の能力に合った食事の提供をしています。大きいものや固いものは刻み食の対応をしますが、食事介助に入る支援員が利用者個人に危険がないよう、その場でキッチンバサミで刻む対応もします。安全で美味しい食事を提供し、食事が利用者にとって楽しいものであるために、支援員や看護師、そして調理スタッフと連携しつつ、食形態や提供方法の改善を考えています。

利用者にとって食事は、生活の中で楽しむ時間の一つです。わかぎでは、季節の行事を大事にして献立作成を行っています。春のお花見弁当、七夕、土用の

丑、お彼岸のおやつ、秋の味覚弁当、クリスマス、節分、ひな祭りなどです。普段と違う、少しだけ豪華で華やかなメニューで季節を感じていただけたら嬉しいですね。

そしてもう一つ、家庭の味を大事にしたいという想いを持っています。現在、食事の調理業務を給食業者に委託していますが、このような想いを伝えて、できるだけ手作りの料理を提供しています。根強い人気メニューの一つに、手作り餃子があります。調理スタッフにとっては、とても大変なメニューではありますが、一つ一つ手で包んだ餃子を温かく提供すると、「おいしいよー」という声を聴くことができます。

現在わかぎでは、新調理(※)の導入の準備を進めています。目的としては、①朝食のメニューを現在よりもバラエティに富んだものにする②軟菜食の幅を広げる③個食の対応をできるようにすることなどです。

今後、利用者のさらなる高齢化に直面します。現在よりもっと、嚥下機能が低下する方が増え、嗜好の変化も起こり、食事形態や献立内容に課題が出てくると思います。そのような課題を解決していけるよう、準備をしていきたいと思えます。

健康維持のための食事がこの先ずっと利用者の笑顔を創っていけるよう、そして安全な食事の提供を維持できるように努めます。

う、日々努力していきたいと思えます。 ※鍋を使わず食材を真空パックした袋の中で加熱調理する調理法。



七夕メニュー (行事食)

### 「ハッピー」クッキング」

つばさ静岡 府川 恭子

美味しい料理はみんなの笑顔を引き出します。作り手はみんなが幸せそうに料理を食べている様子を見る事に喜びを感じています。さらにその料理を取り巻く環境(食事中の介助者の「おいしそうだね」などの声かけ、明るい食事風景)が穏やかで明るい雰囲気だとてもホッとします。

作り手はみんなの笑顔を見るために料理の基本を学びながら、日々より良い調理法を考えています。どうやって肉や魚が硬くならないで中までしっかり火を入れることができるのか。一見とても

簡単のように感じるこの事が実はかなり難しいのです。食材の状態、調理器具、火加減、温度、時間、盛付け法など一点だけ考えれば良いのではなく、全てのバランスが整い始めて美味しい料理になるのです。しかし、つばさの料理はそこで終わりではありません。みんなが安心して食べる事が出来るよう、更に工夫。特別な料理を作るのではなく、皆と同じ物を同じように食べてもらえるように日々試行錯誤しています。食べる方達が、皆で輪になって同じ料理を楽しめるように♪



まともりペースト食

あれっ？栄養士は一体何をしているの？美味しい料理を実際に作っているのは調理師で、盛付け方などを工夫して皆が喜ぶ一皿の料理を作り上げているのも調理師。栄養面においては、実際に美味しく完食してくれたら、栄養は自然と摂れています。献立のバランスは栄養士のセンスですが(笑)その中で栄養士の仕事として大切な事は、日々の生活の中で欠かすことが出来ない食事の時間が

豊かになるよう周りの環境を整え、食べる人と介助する人、作る人の間を一つの輪で結びつけることだと思えます。

食べる方が安心して食事を楽しむためには、食事を取り巻く環境が一方通行ではダメではないでしょうか。お互いが「こうしたら美味しく食べる事が出来るかな」「こうしたら喜んでくれるかな」「こうした方がより良いかな」など、色々な立場からアイデアを出し合い皆が輪となって考えることが大切だと思います。そしてその事が、つばさ静岡の食事作りの基本的な考え方となります。



クリスマス会の食事場面

写真のように、日常とは少し違うイベント時の食事でも、皆が輪になって食事を楽しめる料理を提供しています。創立十周年フェスタつばさでの食事もお楽しみに♪

浜松地区

苦情解決委員会を開催

9月4日に浜松地区の苦情解決責任者と第三者委員の杉本民さんが集まり、苦情解決委員会を開催しました。委員会では、各施設から苦情内容・相談対応・解決結果などの報告があり、杉本さんからアドバイスを受けました。

苦情内容の概要として、サービス内容や事務手続きの説明・報告不足、近隣住民からの要望が多く出ていました。頂いた苦情は真摯に受け止め、改善していきます。

赤い羽根共同募金 受配報告

- 1. 受配施設 相談支援事業所「アグネス静岡」
- 2. 受配物品 車両「ホンダ フィット」
- 3. 受配額 1,065,000円

◇相談支援事業「アグネス静岡」は重症心身障害児者施設「つばさ静岡」敷地内で運営しております。障害をお持ちの方の家族やご本人のお悩みをお聞きし支援サービスの相談窓口として利用計画書の作成業務等を行っています。当職員が相談支援専門員として利用者のご自宅に出向くケースも多く、専用車両の必要性を感じていました。このたび共同募金会様のご好意で相談支援用車両『ホンダフィット』を購入させていただきました。募金して下さった多くの皆様の温かいお気持ちを胸に大切に使用させていただきます。



ます。また、事例を通し、利用者の権利擁護・接遇・地域との交流など、施設の在り方も検討しました。

油田さくら会 様

小羊学園を支えるボランティア

会員の方が十字の園・おおぞらの家・小羊学園に西静分区での奉仕をきっかけに、油田さくら会も何か奉仕ができないかという事で、第1木曜日の午前中に小羊学園の洗濯物たみまを、されるようになりました。2000年頃より始まり、最初は30人の会員も現在は60名ほどに増えました。現在は、3人ずつ来て下さっています。10人程の方は、小羊学園に奉仕されて15年継続して下さいます。その他、気賀小学校の登下校の見守り隊なども行っており、地域福祉に貢献されておられます。これからも、どうぞよろしく願います。



小羊学園を支える会

2015年度 寄付金報告

8月 受付分 258,000円 (24件)  
 累計 4,219,430円 (96件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785  
 口座名義 社会福祉法人小羊学園  
 ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785  
 口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。  
 小羊学園を支える会事務局 (鈴木)  
 小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337

編集後記

秋雨前線と台風18号に伴う豪雨は、浜松全体、特に南区・東区に大きな爪痕を残した。東海地震への備えは意識が高いもの、大雨/洪水には無縁と思っていた市民も多く、洪水・冠水への意識や備えは弱かったのも事実。被害の様子が全国ニュースでも流れ、学生時代の友人や南相馬の施設長様からも、気にかけてメールをいただき、感謝。改めて、人のつながりの大切さを感じるとともに、防災意識を高め、備えをしなくてはと思う出来事であった。

残暑もあとわずか。心地よい秋風が待っています。皆様どうぞお身体ご自愛ください。